

さいたま市議会 まちづくりオープン委員会記録

平成26年12月16日(火)

開 議 (午後6時30分)

○小柳嘉文副委員長 ただいまから、まちづくり委員会オープン委員会を開きます。

本日は夜間の開催にもかかわらず、皆様にお越しいただきまして大変ありがとうございます。

私は本日の司会を務めさせていただきます、さいたま市議会まちづくり委員会副委員長の小柳と申します。よろしくお願ひいたします。

まちづくり委員会オープン委員会の開会に先立ち、私のほうから本日の進行について御説明を申し上げます。

私たちさいたま市議会まちづくり委員会では、将来にわたり市民が安全で快適に生活できる都市を目指し、自動車に過度に依存しない、さいたま市らしさを生かした都市交通のあり方に関する調査研究を進めております。本日のまちづくり委員会オープン委員会では、まず当委員会におけるこれまでの調査研究結果について委員長の宮沢より御報告をさせていただきます。

報告後、若干の休憩をとらせていただいた後、本日はお忙しい中をお越しいただいております、JR大宮駅長である筑波様に御講演をいただくこととなっております。

講演のテーマは「まちづくりと鉄道・鉄道駅～おかげさまで、大宮駅130周年～」とさせていただきますが、筑波様の講演を通し、主要な都市交通の一つである鉄道及び鉄道駅がまちづくりや地域の活性化にどのようにかわり、どのような役割を果たしているかについて学ぶとともに、講演後に、都市の利便性、機能性を高めるために、これら都市交通を今後どのように活用していくべきかについて、筑波様と私どもまちづくり委員会メンバーの間で質疑応答をさせていただきます予定となっております。

本日のオープン委員会は以上の予定で進めさせていただきますこととし、午後8時ごろ閉会予定としておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、ここで若干のお時間を頂戴いたしまして、さいたま市議会が進めるオープン委員会についてPRをさせていただきたいと思ひます。

開かれた議会、市民に身近な議会を目指すさいたま市議会では、市民の皆様が議会に参画する機会をふやしていくことを目的に、本年3月20日にさいたま市議会オープン委員会開催要領を制定しております。日ごろ私たちが活動の場としている議会棟を飛び出し、市民の皆さまにより身近な場所で委員会活動を行うことで、私たちのことやその活動内容を1人でも多くの方に知っていただけたらという考えによるものでございます。

本日の会議は、まさにそうした考えに基づき開催されるものでありますが、いかんせん立ち上げたばかりの制度であり、手探りの部分もござひます。行き届かないところも多々あろうかと思ひますが、御容赦いただきますようよろしくお願ひ申し上げます。

なお、本日はアンケート用紙を配布させていただきます。今後このオープン委員会を実りあるものとするための貴重な御意見として参考にさせていただきますものでござひます。皆様にはぜひ本日の御感想を御記入いただきますよう御協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

そして最後になりますが、ここで皆様にお願ひ申し上げます。オープン委員会開催中の写真撮

影につきましては自由とさせていただきます。しかし、フラッシュの使用につきましては御遠慮いただきますようお願い申し上げます。また、お手元の携帯電話やスマートフォンの電源はお切りいただくかマナーモードに切り替えていただきますよう御協力をお願い申し上げます。

前置きが長くなりましたが、それではただいまから、さいたま市議会まちづくり委員会オープン委員会を開催いたします。

早速ですが、本日のプログラムに入らせていただきます。

はじめに、さいたま市議会まちづくり委員長の宮沢則之より御挨拶と委員紹介をさせていただくこととし、その後、これまでの委員会で行ってまいりました調査研究に関する活動報告をさせていただきます。

○宮沢則之委員長 皆様、こんばんは。本日はお忙しい中、またあいにくの雨で足元の悪い中、オープン委員会に御参加いただき本当にありがとうございます。

私は、当委員会の委員長を務めさせていただいております宮沢でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

先ほど、小柳副委員長からも申し上げさせていただきましたが、私たちまちづくり委員会では、本会議で付託された議案、請願に対する審査のほか、さいたま市の都市交通のあり方をテーマに調査研究を行っております。

本日は大宮駅近くにありますが、ここさいたま市宇宙劇場を会場にオープン委員会を開催させていただきましたが、市民の皆様方に少しでも私たちの取組みについて知っていただければという思いから、このような機会を設けさせていただきました。

また、本日はJR東日本大宮駅長の筑波様に御講演をいただくこととなっております。私たちにとってなじみ深い大宮駅でございますが、ふだんは知ることができない貴重なお話をたくさんお聞かせいただけるのではないかと私も期待をしているところでございます。

以上、短い時間ではございますが、実りのあるオープン委員会となるよう努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、続きまして、当委員会のメンバーの紹介に移らせていただきます。

ここからは自己紹介という形でマイクをお渡しますので、本日出席の委員の皆様におかれましては、各々で自己紹介をお願いしたいと思います。

○関根信明委員 皆様、こんばんは。自民党さいたま市議団、北区選出の関根信明でございます。よろしくお願い申し上げます。

○桶本大輔委員 自民党さいたま市議団、南区選出の桶本大輔でございます。よろしくお願い申し上げます。

○渋谷佳孝委員 こんばんは。同じく自民党さいたま市議団、大宮区選出の渋谷佳孝でございます。よろしくお願い申し上げます。

○吉田一志委員 こんばんは。岩槻区選出の公明党さいたま市議団の吉田一志でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○熊谷裕人委員 こんばんは。民主党さいたま市議団、大宮区選出の熊谷裕人でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○村松順子委員 皆様、こんばんは。改革フォーラム、緑区選出の村松順子でございます。きょうはどんな話が出てくるかを皆様と一緒に楽しみにしております。よろしくお願い申し上げます。

○細沼武彦委員 こんばんは。細沼武彦でございます。選挙区は見沼区ですが、副議長を仰せつかっている関係で無所属という形で活動させていただいております。よろしくお願いします。

○小柳嘉文委員 最後になります。民主党さいたま市議団、浦和区から御選出をいただいております小柳嘉文と申します。本日は進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○宮沢則之委員長 なお、加藤委員におかれましては、公務のためおくれで参加ということになっております。私より御報告をさせていただきます。

また、戸島委員に関しましては、所用により本日欠席という御連絡をいただいておりますので、御報告申し上げます。

以上、11名のメンバーで進めておりますまちづくり委員会でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、引き続きまして、当委員会で行っておりますさいたま市の都市交通のあり方に関する調査研究について、これまでの活動状況及び結果に関する報告をさせていただきます。

本日はお手元に資料を用意させていただいておりますので、資料をごらんになりながらお聞きいただければと思います。

まず、このテーマを設定した目的でございますが、さいたま市では総合都市交通体系マスタープラン基本計画（さいたまSMARTプラン）に基づき、将来の総合都市交通体系の全体像についての基本的な考え方が示されております。その計画の中で、今後の交通需要の増加を想定しており、将来の交通体系の基本的な考え方として、自動車に過度に依存しない交通体系の実現を目指すこととしております。

本市を取り巻く社会情勢といたしましては、夜間人口の急激な増加、ベッドタウンとしての機能から就業の場、仕事の場としての役割の変化、また、土地利用に関しては人口集中地区の郊外への拡大などの動向が見られ、将来的には自動車を利用した移動が大きく増加することによる、道路混雑の一層の悪化が想定されています。しかしながら、現在の道路整備の進捗度合いから見ますと、道路渋滞の緩和は非常に困難であると思われ、さらに今後の少子高齢化や環境問題等の社会情勢を鑑みた場合、本市の交通体系の将来像を明らかにし、市民の皆様が安全で快適な生活を送るためにも今後の都市交通基盤の方向性を考える必要があるということから、本テーマについて調査研究を進めることを平成25年6月21日のまちづくり委員会において決定いたしました。

そこでまず、平成25年9月18日に開かれたまちづくり委員会におきまして、当時の都市交通課職員より、さいたま市の都市交通政策について、本市の現状、計画体系及び主要な施策について説明を受け、またその中で、自動車に過度に依存しない交通体系の実現に向けた、鉄道、バス等に関する公共交通施策及びコミュニティサイクル、自転車通行環境整備等の自転車交通施策等への取り組みについても説明をいただきました。

こうした経緯を踏まえ、当委員会では平成25年11月14日から15日にかけて交通施策の先進地である愛知県豊田市及び名古屋市の行政視察を行いました。

豊田市におきましては2030年を長期目標年次とする交通まちづくりビジョンを策定し、過度な自動車依存からの脱却、多様な交通手段の選択と利用の促進に力を入れており、全国に類を見ない社会実証実験による取り組みを行っていること、また、名古屋市におきましては、志段味地区の住宅開発に伴い、都心方面への道路混雑の緩和や新たな交通需要への対応としまして、一般道から専用高架道へと乗り入れ運行するガイドウェイバスを2001年3月に導入、開業するなどから視

察地として選定し、地域の実情に応じた交通政策への積極的な取り組みについて伺うことができました。

そして、これら平成25年度中に行った調査研究につきましては、平成26年6月定例会におきまして、まちづくり委員会調査研究報告として議会に対し報告を行っております。

なお、さいたま市の都市交通政策に関する調査研究という非常に幅広のテーマということもあり、委員からは引き続き本テーマについて調査研究を続けるべきとの意見があり、平成26年6月20日に開催した年度最初のまちづくり委員会で、本テーマに関する調査研究を継続していくことを決定いたしました。

また、本年11月13日から14日にかけて、岡山県岡山市及び愛媛県今治市の県外行政視察を行っております。

まず、岡山市につきましては、岡山市都市ビジョンにおいて水と緑が魅せる心豊かな庭園都市を都市像としており、その実現を都市交通の観点から進めるために、低炭素社会への取り組みとして、自動車に過度に依存しない人と環境に優しい公共交通の充実した総合交通体系への移行を目指しております。

道路交通の渋滞対策として、鉄軌道のサービス向上を目指した次世代型の電車システムであるJR吉備線のLRT化の進捗状況とその課題について、また、都心内の回遊性の向上を図るためのコミュニティサイクルももちやりの事業拡大、放置自転車対策としての民間資本を活用した路上駐車場などについて説明を受けるなど、岡山市では渋滞緩和に向けた取り組みや民間資本を活用した交通事業について調査を行いました。

次に、今治市では、しまなみ海道をサイクリストの聖地にすべく、しまなみサイクリングロードを積極的に活用した事業展開を図っており、自転車グッズが販売可能な自動販売機や今治駅前の自転車組立場などの先進的な設備を視察いたしました。

また、世界中のサイクリストたちへ、アピールをするために、近隣自治体と連携して取り組んでいる愛媛マルゴト自転車道や国際サイクリング大会についての説明を伺い、今後自転車政策を本市で積極的に進めていくうえでも大変に参考になったものと感じております。

限られた期間内での調査研究のため、具体的な証左という点ではまだまだ不十分な部分もございますが、これまでの2年間に及ぶ調査研究は本市における交通体系の将来像や今後の都市交通基盤の方向性を考えるうえで大いに参考になるものであり、当委員会としての理解を深めるうえで十分意義のあるものであったと考えております。

特に本市の都市交通政策の一つの方向性として、比較的平坦な地形を生かした自転車政策を強力に進めることは有効であり、コミュニティサイクル事業の推進や自転車専用道路の整備は早急に行うべきと考えます。

今後、当委員会として、まとめの段階に入っておりますが、本市の交通施策にとって真に有意義な提言につなげていけるよう委員一同努力してまいりますので、引き続き御支援御協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上で、現時点におけるまちづくり委員会の調査研究報告を終わります。

○小柳嘉文副委員長 ありがとうございました。

それでは、以上をもちましてまちづくり委員会の調査研究報告を終わります。

ここで若干でございますけれども、休憩時間をとりたいと思います。

再開は午後7時といたします。

休 憩（午後6時50分）

再 開（午後7時00分）

○小柳嘉文副委員長 それでは、オープン委員会を再開いたします。

次に、講演に移ります。

東日本旅客鉄道株式会社大宮駅長、筑波伸夫様に御講演をいただきます。タイトルは「まちづくりと鉄道・鉄道駅～おかげさまで、大宮駅130周年～」でございます。

筑波様の御紹介につきましては、宮沢委員長よりさせていただきたいと思っております。

○宮沢則之委員長 それでは、私から筑波様の紹介をさせていただきます。

現在、さいたま市浦和区にお住まいの筑波伸夫様は、昭和56年に日本国有鉄道に入社をされ、同62年の国鉄民営化により、東日本旅客鉄道株式会社となった以降におきましては、平成13年に大宮支社営業部販売課長、同20年には新潟支社営業部長、同23年には本社営業部次長と要職を歴任され、また同25年から埼玉県内最大、そして東日本管内でも第8位を誇るJR大宮駅の駅長として現場の最前線で陣頭指揮をとっていらっしゃっております。

とりわけ来年3月に控える北陸新幹線開業、また上野東京ラインの開通や再来年3月の北海道新幹線開業、さらには明治18年開業の大宮駅が来年3月で開業130周年を迎えるなど、JR東日本や我々利用者にとってエポックメイキングな出来事が相次ぎ予定されている中で、大宮駅を埼玉の、そして東日本の玄関としてよりふさわしい駅とすべく、現在さまざまなイベントに取り組まれているということでございます。

本日は、日本有数のターミナル駅である大宮駅の駅長として御活躍なさっている立場から、都市における基盤交通の一つとして、まちづくりに重要な役割を果たしている鉄道及び鉄道駅について御講演いただき、さいたま市が魅力的な都市となるためには何が必要なのか、また、都市の利便性、機能性の向上を図るためには今後どのようにすべきかについて忌憚のない御意見を頂戴できればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

筑波様におかれましては大変お忙しい中にもかかわらず、本委員会に御出席いただき、まことにありがとうございます。委員会を代表しまして、心から御礼申し上げます。

それでは、御講演のほどよろしくお願いいたします。

○筑波伸夫大宮駅長 こんばんは。ただいま御紹介いただきましたJR大宮駅の筑波でございます。

本日はさいたま市議会のまちづくりオープン委員会にお招きいただきまして、本当にありがとうございます。また、日ごろJRに関しまして御理解、御支援を賜り、ありがとうございます。

今、お話にありましたように、資料の中にもありますけれども、いよいよ来年になると大宮駅は本当に素晴らしい便利な駅になります。そういう意味で、どうやって地域の方々と一緒になって活性化していくか、そういう点をいろいろな部分からお話しさせていただきたいと思っております。

先ほど簡単に私のプロフィールのお話がありましたけれども、私自身の出身は新潟県です。国鉄に入ったときに最初に配属先になったのは群馬県の高崎というところで、当時、高崎鉄道管理局というのがありまして、そこからJR発足のときに本社に参りまして、いろいろ企画部門、本社系列ですけれども仕事をやってきました。

先ほど話のありました平成13年に大宮支社がはじめてできたときに、本社から大宮に出まして

が、さいたま市には本社に行ったときから住んでいます。私は、最寄りが北浦和駅、当時の浦和市、今はさいたま市の常盤で、もう28年、約30年近くここで生活をさせていただいて、地元のよさは十分知っておりますし、先ほど御紹介にありましたように、私もいろいろな部署でいろいろな仕事、ほとんど営業関係の仕事をやってきましたが、大宮駅長になる前は本社で観光の仕事を行いました。そういう意味では、2011年3月の大震災で東北が本当にやられました。

それを、観光を通じて地域を元気にしようと。そういう形の中でいろいろとまちづくりとか活性化をやってきました。知事とかと一緒にですね。ほとんどの東北の知事は知っておりますし、北陸の知事もみんな知っています。

そういう意味では、さいたま市のまちづくりというところに、後ほどお話ししますが私の経験が少しでも一助になれば。十分魅力のあるところだと思いますし、鉄道を通じて便利になりますので、この大宮、さいたまがやはり東日本全体を引っ張っていくぐらいの、そのぐらいの力があるエリアだと私は思いますし、私は今地元の方々とやはり大宮の力をもっと発揮したいということで、打倒横浜と。私まじめにやっています。そのぐらいのすばらしいところなのです。

大宮のポテンシャル性、あとさいたま市のすばらしさ、そういうところはそごうさんとか高島屋さんの店長とも十分に考えていますので、地域の方々とみんなで作る。そういうところをこれからお話しさせていただきたいと思います。

では、パワーポイントの映像をごらんになりながらになりますが、まず、こちらの映像のほうは、新幹線がE5系と言いまして「はやぶさ」、こちらは今新青森まで行っています。こちらがE6系で「こまち」、こちらは秋田までです。いよいよこの3月のダイヤ改正、このE7系の車両が今長野までもう実際に走っておりますけれども、来年の3月になると北陸金沢まで。そういう意味ではこの大宮の駅というのは5方面の新幹線が大宮から分かれているということになります。東京大宮間は1本のレールです。そこにいろいろな列車が走っているのですが、それらが分かれていく、そういう意味では本当に要衝の駅だと思っていますし、再来年の3月にはいよいよこのE5系が北海道、新函館までの開業がありますので、本当に大宮というのはこれからはやはり地域の方々、地域を元気にもできるし、私の気持ちとすれば大宮がもっと元気になるためにはたくさんの方に大宮に来ていただく。この大宮のよさを皆様方と一緒にPR、応援できればいいかなと考えております。

次に、こちらのほうですが、私、社員にも言っているのです。大宮駅はどうしてできたんだ。先ほどのお話にありましたけれども、明治18年、1885年の3月16日に大宮駅が誕生しました。その当時ですが、2年前の明治16年に日本鉄道第1線区として高崎線、今の高崎線が最初にできたのです。その当時の近郊駅というと、浦和の次は上尾でした。ですから、大宮駅というのはなかったのです。それで、こちらのほうに書いてございますけれども、東北本線を2年後につくると。そのときに分岐駅をどうするのだと。そういうところで当時いろいろと話が出ました。浦和にしよう、上尾にしよう、熊谷にしよう。そうしたときに地元の方である白井助七さん、鐘塚公園に胸像がありますけれども、白井さん以下仲間の方々がやはりこのままだと大宮が寂れていくと。そういう状況の中で鉄道を誘致しようと、皆さん、白井さん方々の土地を提供して、鉄道を誘致した。

あとは日本の鉄道の父である井上勝氏、当時の鉄道省の長官ですけれども、分岐駅の話はいろいろあったのですけれども、最短で工事費も少なく、いろいろな面で便宜がいいのは大宮だとい

う決断のもとに大宮の駅ができた。

大宮の駅の住所は錦町です。だから、私が言っているのは、錦町というのはその当時の皆さんに御提供していただいた土地が錦町であり、そこに私たちの施設がある。そういうところで、やはりほかの駅とは違うのではないのか、地域や地域の方々と一緒になって何かできるのではないか。そういうことを今考えております。

それで、こちらのほうが歴史ですけれども、明治18年に駅ができました。その9年後に旧大宮工場、今は総合車両センターと言いますが、工場ができましたし、大宮機関区、いわゆる鉄道の要衝ですから、そこに動力機関を持ってくる。大宮機関区も明治29年にすぐできております。それと、昭和になりましたけれども、いわゆる物流という、交通物流がまだモータライゼーションではなかった頃ですから、鉄道の輸送というのは強かったのです。そのときに大宮操作場が新しくできた。そういう背景の中で、鉄道の要衝の駅としてどんどん大きくなっていきました。

それと当然ですが、私たちがここに職場を構えたということで、鉄道の社員が当然大宮に入ってきます。寮や社宅ですね。家族がどんどん入ってきます。そういう形で人口がふえて、地域の消費もいろいろな部分でまちと一緒にやってきた。それとやはり便利ですから、ここは東北線と高崎線の分岐ですから、物流の面からすると、やはり生産、消費物質、これは東海道ですね。東海道のいろいろな工場がありましたから、生産したものがどんどん大宮に来て、大宮からレールが分かれますから、ここでいろいろと行き先が変わる。そして今度は上越とか東北とか、そちらからは材料、原料がここに集まる。大宮というのはそういうところで、その材料を東海道のベルト地帯、工場のほうに運んだり、本当に物流が交流する大宮である。そうした中で製糸資本産業が大宮に、富岡製糸場が群馬にありますけれども、片倉製糸工場というとんでもない大きい製糸工場が当時大宮にもありました。非常に物流で元気になった。最初にこの大宮駅ができたときの社員数は8人。そういう駅です。でも、物流でどんどん大宮が元気になっていったので、今度は、後ほど言いますが、新幹線が昭和57年、1982年6月23日に東北新幹線の暫定大宮開業、大宮が発発駅になりました。11月15日には、工事でおくれましたけれども上越新幹線もできた。そこで旅客輸送がすごくふえてきて、大宮を使う旅客がふえてきた。それとともに、西口の工事が同じ時期に行われる。そういう形の中で大宮が、まちと鉄道と一緒に非常に大きく発展したということで、これは社員に言っていますが、みんなそういう経緯がわからないで仕事をすることになってきていますので、やはり私たちの原点はどこなのだといいことで言っています。

大宮駅の簡単な概要ですが、先ほども言いましたが、来年の3月16日で130周年になります。ということで、今さいたま市の清水市長と一緒に130周年記念のイベントをやるためにいろいろと準備を進めていますし、さらに市だけではなくて、地元の商店街を含めていろいろ賑やかさをこれからやりましょうということで、市との間でイベントの内容が大体決まってきましたので、これから商店街など、いろいろなところと賑やかさができるようなことを計画していく段階になっております。

次に、運転本数を見ていただきますと、大宮駅の1日の運転本数は旅客列車で1,638本です。お客様に乗っていただく列車の本数が約1,600本、やはりすごく多いです。内訳では、新幹線が大体2割弱ですから330本、あとは在来線です。

それと1日の乗降人員、これは昨年度の実績でありますけれども、この乗降人員は大宮駅の改

札を出入りした人数です。改札口を入ったり出たりした人の数で、1日の御利用は49万人です。こちら平成24年と比べると大宮は1万人増えております。その内訳ですが、定期のお客様が31万人、切符を買っていただくお客様が18万人ということで、定期のお客様が非常に多いです。学生とかですね。

そして先ほど言いましたけれども、乗降人員、改札口の出入りでは東日本管内では8番目。ただ、大宮駅がすごいのは、いろいろな線区が乗り入れて交わっています。改札口を出なくて、駅の中で乗りかえているお客様が大体40万人ぐらいいます。ですから駅の改札内というのは物すごくたくさんのお客様が動いています。こちらのお客様は大宮駅の改札を出ないお客様ですから、大宮に魅力があれば、じゃあ、途中下車しようかなとなる、当然そういうお客様はいらっしゃいます。今後は、そこが、まちの魅力づくりを考えるときの大事なテーマになると思います。あと、構内店舗ということで、エキュート、ディラなどをつくりました。地元の商店街の方々からは、JRのひとり勝ちではないかと言われてはいますが、駅で乗りかえている人は改札を出ないですから、そういう方々に駅の中で便宜的にいろいろなものを提供するというのは商売とすればサービス業であると思います。そういう意味ではこういうお客様をどうやって改札を出ていただくかということがこれから大事なことになるのではと私は考えています。

次に、現在の大宮駅の新幹線と在来線のポジショニングです。新青森から速達列車で150分、仙台は70分、秋田は200分、新潟は100分、長野は70分、非常に便利、近いです。ですから、今大宮でいろいろこういう地方の方々と一緒にあって、観光PRとか産直市とか、今そごうさんとか高島屋さんと一緒にあって、新幹線沿線の自治体といろいろな観光関係のイベントとかやりましょうと言っているのは、この利便性からです。大宮は価値が上がる。

さらに在来線です。湘南新宿ラインができました。湘南新宿ラインというのは新宿を通ってきますから、中央線のお客様というのは今まで新幹線に乗るときに、東京駅から乗ってきました。でも、中央線に来て新宿で乗りかえると、湘南新宿ラインとか埼京線の快速に乗ると35分ぐらいで大宮駅に着きます。ということは、わざわざ東京へ行って東京から大宮まで25分かけているわけです。新幹線でも速度が上がりませんから。それを考えると、今中央線沿線の方は圧倒的にそのまま大宮に来ている人が多いです。そういう意味では非常に便利なところですよ。

それで、これが現在のサービスですけど、これが来年3月のダイヤ改正によってどう変わるか。北陸新幹線が今度大宮からグンと行きます。大宮から金沢まで120分とあります。もうダイヤ見ましたけれども、大体これ2時間4分ぐらいです。富山は1時間45分です。物すごく大宮との距離が近いです。それと、もう一つのダイヤ改正の目玉の上野東京ライン、今高崎線とか宇都宮線で来ている方には申しわけございませんけれども、上野で降りる、地下のホームへ行くのもっとも低い部分ですね。また上へ上がるのに物すごい時間がかかる。そういう部分が3月のダイヤ改正で、全ての列車ではございませんけれども、スルーで東京以南まで行きます。ということは、物すごく東京駅まで近くなる。先ほどの時間で言うと、現在、大宮と東京を在来線の上野での乗りかえ時間も入れると、大体東京まで45分かかります。それがこの直通サービスによって35分で東京に行けるようになり、物すごく便利になります。

大宮から行くのに便利がいいということは、逆に東京方面から大宮に来るのも便利になるということです。私が言いたいのは、大宮にたくさんのお客様に来てもらうためには、やはりそういうところで何か努力していかなければならない。

横浜はすごく大宮で宣伝しています。神奈川県のパR。では、埼玉県はほかの県へ行って埼玉のパRしているのかということ、私は決してやってないと思います。弱い。であれば、こんなに便利になるわけですから、もっともっと大宮を、大宮を中心とした新都心、スーパーアリーナ。やはり横浜アリーナがありました、昔は横浜アリーナのほう稼働率は圧倒的に高かった。今は逆転しています。なぜか。やはり交通が便利だからです。今はさいたまスーパーアリーナのほう稼働率が高い。つまり、それだけ価値がある地域だと私は思っていますし、さらにそういうところをもっといろいろな部分で工夫していけば、もっともっとたくさんの方に大宮、さいたまに来ていただけたらと思います。

それで、私が今年の6月に本社から駅長として来ました。そのときにいろいろと本社の幹部の方々と、大宮は新幹線が開業してからはほとんど投資がありません。そういう意味ではやはり駅をきれいにしたいのです。そういう形でちょっと持参金ではないですけども、ここだけで言えば私はお金を結構もらってきました。そういう形の中で、昨年、インフォメーションセンター、まめの木の位置をちょっとずらしましたが、改札と改札の正面でしたので、お客様が利用するときどうしてもそこに滞留してしまうのです。ちょっとまめの木を横にずらして、一番いいところにインフォメーションセンターをつくりました。いろいろな方々に、不慣れな方々に大宮に降りていただくときに、一番いいところにインフォメーションセンターがあるということは、お客様方の立場になればすごくわかりやすい。ここで聞ける。物すごく問い合わせが多いのです。ですから、ここでの情報発信というのもまた大事な武器だと思います。

それと、御存じのように、西口のほうに円形のLEDディスプレイをつくりました。これは東日本管内でははじめてです。ここではいろいろな文字情報を流しております。ただし、商売の情報は流していません。地域の方々の情報とか、または駅でのいろいろなPRとか、きのうも上田知事とさいたま市長が来られて、特例巡回がありましたので、そのときも文字情報を流しましたし、振り込め詐欺とか、あとは春の交通安全とか消防とか、そうしたいろいろな情報出しに使って、地域の方々に安全に安心して御利用していただく。そういう情報の発信としても活躍しているところでもあります。

それと、駅というものはたくさんのお客様が御利用になりますので、情報を出す駅としての機能が必要だと感じましたので、この柱書き広告、今まではポスターではないですけども、画像を1つ入れたただけでした。これをデジタルサイネージという形で、今デジタルで2分間とか何十秒間流したら次のものという形で物すごくたくさんの方が流せます。ですから、見ていただくように、ここは商売や営業で使っているのもあります。ただ、私はここに駅として使える枠を持たせる、それを条件にこれを入れました。よく見ていただくと、大宮二十景とか地元の情報がここに出ています。やはりそういう形の中では、地域の方々に少しでもこういうものを活用していただいて、いろいろな方々に大宮周辺を知っていただく。そういう形にもなっていますので、今度ゆっくり見ていただければと思います。大宮の情報が出ている。

あとは改札口ですが、大宮駅はやはり広い駅で4か所あってわかりにくいという御要望をいただきましたので、横から見ても、これは北口の写真ですけども、中央北、これをもっと外に出して、ああ、あそこに改札口がある。そうわかるようにこのところも案内サインの大型化ということをやりました。これは去年やった分であります。

今工事中で御迷惑をかけていますが、今年の工事がいよいよ2期目の工事です。今年の工事は

来年の3月までには終わらせませすけれども、いよいよ新幹線が北陸方面に開きますし、上野東京ラインもできますので、さらに御利用になる方、大宮から乗られる方も多し、大宮で降りられる方も多くなるという中で、こちらに書いておるとおり、新幹線の南側には今エレベーターがあるのですが、北側にはエレベーターがございません。ましてグリーン車があるところがないのです。そこで、今北側の改札内に大型のエレベーター、従来よりも一回り大きいエレベーターを2基つけています。これでお客様の移動、足の悪い方などそういう方々にも御利用していただく。

それとあとは、ちょっと今御迷惑かけていますけれども、待合室を大きくしています。たくさんの方々に、新幹線を御利用になるときに休んでいただくよう待合室を増床しています。あと、トイレが一番大変だった。新幹線ができた当時からですが、階段が18段、踊り場があって全部で20段弱ぐらいですけれども、本当に御意見いただきまして、今回はトイレの階段を全部壊しまして、スロープにしています。それでバリアフリーのトイレになっています。新幹線が翌年には北海道を控えているということを考えると、新幹線のお客様にもっと御利用していただく。さらには大宮に降りていただくような形で新幹線ホームの中というところをこういう形で工事していますので、大体3月上旬にはできると思います。3月14日に新幹線のダイヤ改正がありますので、それまでには安全に終わらせて、快適な駅にしようと思っています。

それと今度は、浦和の情報ですけれども、御存じのように浦和が新しく生まれ変わる。もうプレス発表になっていますけれども、来年の秋にリニューアル計画が出ています。観光案内所から市民の窓口、保育園など、地域の皆様方のニーズを踏まえて、西口のほうに関して今新しいビルをつくっております。地域という部分を意識した形の中でやっております。

あと、浦和駅に関しても外観が非常に、今までは東口のほうをやりましたけれども、この工事によって西口のイメージも非常にきれいになる。県庁所在地としての駅という中でやはりきれいになっていく。地域の方々と一緒にの形の中でいろいろと改良していく部分であります。

それと、地域との連携という意味では残念だったのですけれども、本当は残っていただきたかったのですけれども、もうこれは前からいろいろなところでお話ししている資料ですから、私もあちこちでいろいろとお話ししてくれと言われていたので、決して今回のためにつくっているわけではございません。そういう意味ではやはりさいたま市にはJ1チームが2チームあったと言いたくない。過去形にしたくないのですけれども、でも、本当に地元の方は気づかないのですけれども、ほかから見たらとんでもないことです。J1チームが2チームもあるということは。浦和がレッズ、大宮がアルディージャと言いますけれども、私は大宮駅長ではありませんけれども、さいたま市の玄関駅だと思っておりまして、そういう意味ではさいたま市として2チームある。これはやはり財産だなと非常に思うところです。そういう意味では、サッカーというのはほかの都市では言えませんけれども、大宮はサッカーのまちだと、どんどん言ったっていいはずだと思います。

余談になりますけれども、私も中高とサッカーやっていました。浦和にサッカー留学したいと本当は親に言ったのです。親戚いないよと言われて、結局だめでした。私はレッズが大好きだったのです。浦和に本当は来たかったのですけれども、親に許してもらえなかったのです。JR本社に移行するときに、住み家はやはり浦和というふう決めて、そこで浦和で生活を始めたのです。そういう意味ではもうサッカー大好き。言ったらこれも地元の誇れる大事なものだと思います。

それと、やはり浦和はウナギと。浦和のウナギは言った者勝ちだと本当は聞いています。浦和

のウナギ、浦和は私が13年前に支社を立ち上げたときに浦和駅がちょうど120年でした。タケカワユキヒデさんなどを呼んでイベントをやったのですけれども、もう言った者勝ちだ。浦和のウナギ。浦和とすれば、一つそういう意味では、ウナギというのがやはり全国的に有名になったというのは、多分そういうものが大事なことで、それがどんどん地域と一緒にあってイベントができたりしている。そうした流れをどうやってほかとは違った地元の優位性という形で、みんなで地域と共有化していくか。多分そういうところが、地域が元気だな、活性しているなというふうになるのではないかと思います。

それと、これも話題で出ましたけれども、2017年の秋です。いよいよ鉄道博物館が今度は地上5階建ての新館を今の駅側の公園になっているところにつくります。今の本館もおもしろいのですけれども、子どもたちがわくわくするようなものがないのです。今回の新館では子どもたちがいろいろと喜ぶことを考えていく。そういうふうに言っています。今度、口を挟もうと思っていますので、やはり子どもたちにたくさん来ていただければ、当然親も来るし、おじいちゃん、おばあちゃんも来るし、そういう意味では大宮、さいたまが元気になる一つの手段ではないのか。鉄道のまちと言っているわけですから、このところももっと私たちも頑張りますし、やはりまち自体の魅力という面でも、ほかで鉄道のまちと言っているところはあるのでしょうか。まして政令指定都市で鉄道のまちと言っているところはあるのでしょうか。政令指定都市というのはほとんど海ですよ、港ですよ。それを考えると、私たちは鉄道なのです。やはりほかとは違います。内陸ですから。海側がみんな政令指定都市になっていますよね、ほとんど。そういう意味ではやはり鉄道のまちと言っている、そういう部分はやはりほかのところでも鉄道というものにこだわるということも大事ではないかと思えます。

余談になりますけれども、鉄道博物館は昼間の時間以外であれば貸し出しができます。18時半から臨時で貸し切りできる。なかなかそこは使っていないのですけれども、私は今そういうところを画策しています。地域のイベント等をやったときに鉄道博物館をナイトミュージアムにしようではないか。ほかの地域にはできないことです。入場券等のお金が少しはかかりますけれども、さいたま大宮だからできるのは鉄道博物館の貸し切りです。そういうものがあって、いろいろと知恵できると思うのです。そういうことはいろいろと今後の財産である。それはやはりまちおこしというもので使っていけばいいと思えます。

それと、さいたま新都心駅の改札口を出た正面の少し右側、NTTドコモビルの横ですけれども、そこにいよいよ新都心ビルをつくります。こちらに書いてありますけれども20階建てです。1階は子どもの支援センター、2階から4階は商業施設とテナント、5階から10階はホテル、大体266ルームぐらいです。それと、11階から18階は企業のオフィス、あと最上階の19階、20階はブライダルです。眺めがいいですから、鉄道のまちとして鉄道の夜景を見ながら結婚式をあげるとか、鉄道の風景を見ながら結婚式をあげるとか、鉄道へのこだわりができるホテルではないかなと思います。こういうビルもできるということで、いろいろな部分で地域の、ここも氷川神社が近くですぐ行けますから、そういう形でホテル事業を展開しながら、地域とのいろいろなコラボレーションのようなものができればと思います。

大宮がこれから誇れると私なりに思っているのは、私は今北浦和からほぼ毎日徒歩通勤しています。国道17号を直進し大体45分で駅へ着く。ただ、私は今、お客様の命を預かる大切な輸送業務をやっていますので、週に1回は氷川神社に行ってお参りしてきます。そういう意味で、やは

り氷川神社、武蔵一宮というのは物すごい財産です。私はいつも新都心を横断して一の鳥居からずっと歩いています。やはり感動します。元気になります。この氷川神社というのは、もっと地元の方々が誇りに思っていると思います。もともと大宮の名前の由来というのは、大いなる宮居というところからとったわけですから、大宮という名称の歴史からすれば、私は氷川神社というのはもっともっと大事にしなければいけないと思っております。

それと盆栽美術館では、2017年度に世界盆栽大会があります。それと、先ほど言いました鉄道博物館の増床が同じく2017年にまたあります。そういう意味では2017年というのは結構大きいことができる年ではないのかなと思います。

私は各県の観光特使とか、観光アドバイザーを知事から任命されていくつかやっていますけれども、やはり私が思うのは、たくさんの方に大宮に来てもらうためには、一つは大宮で住む、さいたま市で住む、居住する人をふやす。特に大宮はやはり中山道の通りであり大きな災害がない。物すごく安全なところだと思います。そういう部分で言えば、市でもいろいろなプランの中に書いてありますけれども、やはり防災、そういう取り組みはさらに光らせるべきだと絶対に思います。今、南海トラフが来て、いつかは東京に地震が来ると言われているわけです。横浜だって大変です。東京都だって大変です。そういうことを考えると、ここは安全です。そういう意味では防災というものを充実させながら、安心して暮らせるところです。

さらに住む方には年配の方も多分いるでしょうけれども、やはり若い、これから子どもが生活していく、そういう意味では子どもに対する取り組みもやはり必要だと思います。教育の充実、特に保育園。私の社員も言います、やはり保育園、働かなくても保育園がない。そういうところを充実させれば、子どもを預けて働くことができるわけです。女性の社会進出というのはこれから絶対大事ですから、人口は減ってきますけれども、生産年齢人口は減りますけれども、就業者数というのは、女性が働く場所ができれば就業者数は減りません。今東京が頑張って就業者数がふえている。それは女性の活躍の場がふえているからです。そういう意味ではやはり子育てができて、そういう若い方々のためには、子どもの設備というのは物すごく大事です。安全です。そういうものにやはりもっともっと将来的なビジョンを持っていけば、大宮に、さいたま市に住もう。そうなるのではないかと思います。

先ほど言いましたけれども交通も便利です。何で私はさいたま市に住んだのか。サッカーファンだということもありますが、田舎に帰るのに便利です。新潟に新幹線ですぐ帰れる。各方面に新幹線がどんどん延伸していったときに、自分のふるさとに帰るときに、新幹線からあつという間に帰れます。そういう立地条件もあるわけです。若い方々に住んでいただくようなそういう総合的な取り組みを、胸を張ってやればいいと思います。

それと、あとは大きい震災とか、そういうのがあるという意味では、今東京都のやはり高齢の方々は今外に出始めています。東京都に住んでいる方なんかは自宅を担保にしてお金を借りられる制度もできています。そういう形の中で多分裕福な方々はいろいろと外に出ていくのではないかな。そういう意味では、やはり高齢者に優しいバリアフリーを含めた、いろいろな仕組みができれば、便利ですので、たくさん裕福な高齢者の方々も東京から来るのではないかな。東京に行くのに便利です。先ほども言いましたが東京駅まで在来線で35分です。そういう意味でも物すごく鉄道の便利さがあるわけですから、私の仕事ではないのですが、そういうことができると、定住人口がふえるのではないのでしょうか。そうすると税金が入ります。そうしたことをやはり考

えていく必要があるのではないかと思います。ここは私の地元ではないですけども、そういうところは一番このように恵まれているのに、というのは個人的な主観ですけども。

そして、今度は私の仕事の部分、交流人口です。先ほど言いましたけれども、新幹線のネットワーク、在来線のネットワークでは物すごく便利な大宮駅ですから、浦和もそうですけれども、たくさんの方に来てもらえばいい。でも、今は乗っていく駅になっているのです。私は降りていただける駅にしようと思っている。そういう意味では大宮はおもしろいではないか、魅力があるではないか。でも、そうした部分の情報発信が本当に今まで十分だったのか。そういう形の中で魅力ある武蔵一宮を見てみましょう。江戸から明治になり、京都から天皇が来たときに最初にお参りした宮が氷川神社ではないですか。だから、8月1日の例大祭、勅使が来ているではないですか。そのようなイベントをやられている氷川神社です。本当にそれをみんなで誇らなくていいのですか。

よくわかりませんが、実際に天皇御本人は来られません。でも、宮司に聞いたところでは、例大祭のちょうど式典が始まったときに天皇は皇居で氷川の森のほうを見て立っているそうです。そういうすばらしい神社です。それから、やはりまちとともに鉄道が発展したという部分、ここは鉄道のまちと言っている部分であれば、もっと鉄道というものを使って、鉄道博物館もありますし、鉄道というものをもっと全面的に出すことです。先ほど皆様方お笑いになられましたけれども、私は横浜には負けたくない。というのは、横浜は人口が多いだけです。大宮はもっとすごいではないですか。せっかく鉄道博物館があるのですから、ああいうものをもっと使った活性化を考えるべきなのです。そういう意味では大宮のブランドというものを振興していくことも大切だと思います。

あとは、大宮、さいたまの地産地消、残念ながら大宮のお土産は余りない。東京ばななを何で大宮の駅で売らなければならぬのか。大宮ばななと言えないのかと言ったのですけれども、それは勘弁してくださいと言われました。でも、やはり私とすれば、大宮の駅周辺で買ってもらえるのは大宮のそういうものをどんどん買って行ってもらいたいです。さいたまのものを。そういう意味では地産地消みたいな掘り起こし、私たちの駅では産直市やっていますけれども、今、東北とか北陸とかやっていますけれども、さいたまの産直市だってやっていいわけです。今度130周年のイベントでそれはやりますけれども、さいたまの魅力を出すというのは当然、私の駅としてもやらなければいけないことですし、近郊農家もあるし、そういう意味では地産地消というものは多分もっとあるのではないかと思います。そういうことを掘り起こしていきたいと思えます。

大宮の工場まつり、総合車両センターでやっていたイベントを、今年の5月にさいたま市と協働で鉄道ふれあいまつりということで開催し、車両センターの工場まつりもあるけれども、来た人たちに周遊してもらおうではないかということで、東西口でミニ新幹線も走らせたりしました。こういうことを引き続きしっかりやっていきたいと思えます。

それと、神輿がすごい、大事な夏まつりです。大人の神輿はすごい。では、駅だから東西になぐ自由通路で子ども神輿を担がせてしまおうではないかということで、子ども神輿をやりました。お客様が喜びました。子どもたちも親御さんも喜びます。また来年もぜひやらせてくれと言われていています。大宮駅を使って東西の交流をふやす。そういうことも一つの道筋としてやっていきたいと思えますし、こういうことをいろいろ考えていきたいと思っています。そういう意味で

はまた来年たくさんの町内の子ども神輿ができればと思っています。

それから、私たちの会社は、先ほど言いましたけれども、東日本大震災のあとで新しい中期計画をつくりました。「グループ経営構想V～限りなき前進～地域に生きる。世界に伸びる。」とのコンセプトです。その中でいろいろな取り組みはつくっているのですけれども、変わらぬ使命の中で「地域との連携強化」というのが一つの大きな柱に入ってきます。やはり震災から東日本は混迷していますし、なぜ観光誘導というのかというと、地方の定住人口はどんどん減るのです。産業がないから。子どもたちを教育して大学まで育てても就職がない。だから、どんどん出て行くしかないわけです。そういう形では観光というものは地域がおいしければ、東京の人たちが地方に来て、そして地方に行けばお金を落とします。

何年か前の国土交通省の資料で、人口1人が亡くなったとき125万円くらいの消費がなくなると出ていました。それを逆に言ったら、観光の動きで1人当たりの日帰り、泊まり、消費額が出ますので、では何人送り出せば人口の減を補う消費をつくれるだろうということをやりました。私たちの会社は鉄道会社ですから、鉄道にたくさんのお客様に乗っていただくためには観光というのも大事です。新幹線のお客様の利用別に言うと、ビジネスは私どもの新幹線は50%強です。JR東海の新幹線は8割です。ですからJR東海は観光などやりません。でも、私たちの新幹線はビジネスで半分しか乗らない。ということは、ビジネス以外のお客様をふやす、地域と一緒にできる観光というのは一緒になって手をつなげるわけです。私は本社でそういう仕事をしてきました。

それで、大宮駅が来年130周年になるということで、今回は周辺地域とのコラボレーションとして、鉄道記念日の10月14日に駅でトレインフェスタというイベントをやりました。ミニ新幹線を中央の連絡通路で動かしました。それから、地元のそごう大宮店や大宮高島屋、大規模店の店長等を集めて、大宮RENKETSU祭というのをやりました。駅で情報を出して集めるから、まちの中に行ってもらおう。そういう形で大宮RENKETSU祭をやりました。駅はお客様を降ろすことはできます。でも、駅だけではおもしろくも何ともない。ということは駅周辺の活性化と一緒にすることで価値が上がる。そういうことを引き続きやっていこうと思っています。

ここに書いてありますけれども、大宮駅周辺活性化事業を関係者みんなで考えていく。みんなで協力して、みんなで実践する。誰かだけではだめ。いま言っているのは、東口も西口も一緒ですということ。皆さん方は東口に住んでいる。西口に住んでいると言いますけれども、ほかから降りてくるお客様にとってみれば東も西もありません。私は降りていただくお客様をふやすためにはそこは一緒にやってもらわないと、東に行けとか西に行けとか言えないですから、そういうことも言っています。

最後になります。いろいろ言いましたけれども、私とすれば、やはり地域との連携強化、これができることで地域が活性化できると思っています。これは先ほど言いましたように、鉄道のネットワークがどんどん進み大宮駅は便利になります。であれば、逆に言うと大宮駅が発駅だと思えば、青森から始まって新潟含めて名古屋までみんな着側です。では、そこ一緒になって何か大宮駅でやる。では、大宮駅が今度着側だとすると、青森や仙台とか、一緒になって大宮で何かやるということもできます。だから、大宮の駅は乗る駅だけではなくて、降りる駅にしたい。地域の方々とおもしろいことができれば、そういう着側という面での大宮駅にもなると考えています。そういう意味では新幹線優先の自治体、発駅側の大宮、それは逆に着駅側の大宮にもなる。

いろいろな部分で各地の地産地消や芸能やイベントなどをやることで大宮はおもしろい。そうならば、地域の活性化というのはできてくると思います。

もう一つは、やはりさいたま市大宮に住んでいる方、私は住んでよしだと思うのです。すばらしい歴史がある、文化がある。訪れてよし、ここです。訪れてよしの取り組みがこれから大事だと思うのです。住んでいいということは、ほかの方が来てもいいわけですから。自分たちの誇りがある。そこをやる。そういう意味で大宮は拠点ですから、要衝ですから、いろいろなことがアプローチしやすい駅ですから、鉄道が便利になりますから、そうしたエリアとしての発展というのはこれから急務になると思います。そういう意味ではここに書いてありますけれども、武蔵一宮氷川神社の門前町から大いなる宮居という名前がとられて大宮というものが誕生したのだ。それから歴史、氷川さまの歴史、鉄道の歴史、文化、たくさんあります。中でも鉄道、これが多分大宮というものがほかのエリアと比べたときに一番強いところだと思います。そこをどうやって、足し算ではなく掛け算で、それから将来的に大宮が継続して元気になるためには子どもたち、子どもたちに優しい、子どもたちが喜ぶ、先ほどのテーマにもありましたけれども、子どもたちというのが多分ターゲットになってくるのではないかな。でも、大宮のお祭りを見ますと、子ども神輿や、私もいろいろなお祭りを見ているけれども、子どもたちをきちんとしつけてやっているというのは今、余りないです。そういう大宮の一つのお祭りにしても、子どもたちというのはきちんとしつけて、ああいうものができるということは、今、ほかではできなくなっているのです。そういう意味では、やはり子どもたちというものをもっと主役にできるようなことを考えていくと、大宮はいいな、元気があるな、では生活するなら大宮にということにもなるのではないのでしょうか。

先ほども言いましたけれども、新幹線はこれからもっと伸びていきます。東京からは物すごく近いです。そういうところでは逆にその沿線から大宮というのはもっと便利になってきますから、ここがもっと元気ですごいとなれば、ここに住んでいただく方もふえる。私はふえると思います。安全ですから。そういう形の中でこの地域が元気になって、さいたま、大宮、埼玉県が日本を元気にするという、それぐらいの力はあるところだと思いますので、そこが魅力でありますけれども、いろいろな方々とさいたまの大宮の情報を発信しながら、すごいということをやっていきたいと思っています。

以上でございます。

○小柳嘉文副委員長 筑波様、ありがとうございました。

以上をもちまして、東日本旅客鉄道株式会社 大宮駅長 筑波伸夫様の講演を終了させていただきます。改めまして筑波様に拍手をお願いいたします。（拍手）

では、筑波様におかれましては引き続きまちづくり委員との質疑応答、意見交換におつき合いいただければと思いますので、よろしく願い申し上げます。

それでは、本日最後のプログラムになります。

筑波様とまちづくり委員による質疑応答に移りたいと思います。

まちづくり委員の方、お席にお戻りください。

質疑応答の進行は、宮沢委員長にお願いしたいと思います。宮沢委員長、よろしく願いいたします。

○宮沢則之委員長 筑波様、ありがとうございました。貴重な御意見をいただきました。こういう

機会でございますので、委員の皆様から、何か質問があれば質疑応答をしていきたいと思ひます。
どなたか質疑のある方は。

関根委員

○関根信明委員 駅長、ありがとうございます。駅長には地元のお祭りなどいろいろな場面で応援をしていただいて、いまだかつてないほど本当に積極的にいろいろ進めていただいております。我々さいたま市としても今、駅長のお話があった中で、しっかりと連携をしてやっていかなければいけない。特に新幹線が来年北陸、翌年には北海道から入ってきて、まさしくこの大宮駅が大きく変わるときに、さいたま市と大宮駅は連携して、さいたま市は経済を良くしていかなければいけない、人が出てくる観光でも競わなければいけない。そうした中で筑波駅長につきましては、今、大宮RENKETSU祭やふれあいフェアなど、なるべく市と連携して大宮駅長はやっていこうと進められていると思うのですが、特に来年、再来年は大きくこの大宮駅が変わる中で、さいたま市と連携をしていくことによって経済の活性化、地域の活性化が生まれてくると思うのですが、来年の行事等を含めて、細かいことは言えないのだろうとは思ひますが、駅長として、その辺のいわゆるさいたま市との連携、特に経済という意味でどういふふうに取り組まれているのかお伺ひしたいのが1点と、さいたま市と連携をして、大宮駅としても3.11があったときには帰宅困難者に対して積極的に対応していらっしゃる。また、市と連携していらっしゃると思うのですが、2点目として帰宅困難者対策についてその辺のお伺ひをさせていただきたいのと、3点目として、今回2期目のリニューアルとしてトイレの改修等をやろうということで、より快適にということだと思ひますが、我々議員のほうからよく出るのは、西口にトイレがない。東口にはありますが、西口はない。要は、駅舎が閉まった段階で鐘塚の公園まで行けばトイレがあるのですが、駅にトイレがないということで、もしかすると市でやらなければいけないことかというふうにも思ひますが、やはり東日本で8位の駅でありながら、西口にはトイレがないということがありますが、立場的に可能な範囲で、それは市で対応していかなければいけないのかと思ひますので、その3点についてお聞かせ願えればと思ひます。

○筑波伸夫大宮駅長 まず、さいたま市との連携ですけれども、先ほど言ひましたけれども、3月16日で大宮駅が130周年になるということで、さいたま市と協働でイベントをやりますよ、ということになっております。今、さいたま市の交通イベントをやっていますけれども、内容はまだ打ち合わせをしているところで、正式には多分2月の頭くらいにプレス発表になると思ひますけれども、やはり楽しい鉄道のイベント的なものを駅周辺を含めてやろうということでいろいろ詰めているところです。私としてもやはり駅の中だけのイベントにしたいということで、やはり大宮駅に来た方にもっとまちに出ていただく、そういう取り組みはぜひ引き続きやっていきたいと思ひています。130周年というのは、次は10年後になって140周年、10年も待つ。そういうことを考えると、今、地元の方々に言ひているのは、先ほど言ひましたけれども、10月14日は鉄道記念日ですが、毎年、鉄道記念日があるのです。鉄道のまちと言うのであれば、毎年、鉄道記念日におもしろいものをやればいいのではないのでしょうか。今回10月に大宮RENKETSU祭というものを地元の商業施設の方々とやりました。それは130周年記念イベントでJRだけではなくて、行政だけではなくて、地元のそういう商業施設の方々とやりたいから、その予備訓練として10月にやっているのです。130周年、3月のときにまた一緒にやりますが、それで終わりではないのです。私の思ひは10月の鉄道記念日にそういうことが毎年みんなと地域の方々と

きるような鉄道のまちという、そういうことができる仕組みづくり、私もいつまでもいるわけではないので、人が変わっても組織がついてくる。そういうものをつくっていきたいという思いで、今やっています。そういう意味では今回の130周年は非常におもしろいと思いますけれども、私とすれば一発イベントではなくて、いろいろな部分でできる、そういうことができる鉄道と言っているわけですから、そういうことにできるよう、さいたま市も含め、今後もまた地元も含め連携してやっていきたいと思っています。

あと2点目の震災の帰宅困難者、私は東日本大震災が起きたときには新潟の部長をやっていたので、実際に大宮駅がどうだったかはわかっておりませんが、まず駅にたくさんの方がいる時間帯に地震が起きたとすれば、まず駅としてやらなければいけないことは、駅の建物は安全なのか、安全という保証がなくて駅にお客様を滞留させていいのか、そういう部分で考えます。安全というものがある程度担保できれば、ある程度駅でお客様を、帰宅困難者を抱えるということは可能だと思います。ただ、いずれにしても、鉄道が今度運転再開になったときに、東京とか何かでありましたけれども、ホームに出たりすると、今度は再開のときに運転ができないのです。そういう意味では条件とすれば中央コンコースとか、そういう場所である程度、一夜ぐらいは置けるのではなかろうか、そういうことはできると思いますけれども、その後はさいたま新都心とか、そういうところに御案内することは可能だと思います。

ただ、いずれにしても、駅設備も新幹線ができてやはりもう相当古いですので、今、耐震補強とかいろいろやっていますけれども、そういうところの安全の確保というものがまず一番で、駅として大丈夫だということであれば、それはお客様を外に出すというのではなくて、帰宅困難者をお預かりするというのはその翌日まではできるのではないかと思います。

それと、3点目の西口トイレはいろいろと、きょうも新藤議員が来て、言われていますけれども、やはりこれは駅長が話しをする立場ではありませんので、大宮支社というところがありますし、市との調整になると思いますけれども、トイレをつくったときに一つ不安になるのは、滞留者がふえるということで、そのときの防犯というものが多分大事になるのではないのでしょうか。また、私たちの駅構内の施設という部分でも今いろいろ駅ビルの部分とかでお店をつくっていますので、そういうところに出てまでトイレをつくるのかというと、場所的には非常に提供する場所がないのではないかと。駅長としても本来であれば置ければ置いたほうがいいとは思いますが、ただ、条件的には非常に厳しいのが現状ではないかと思っております。トイレというのは、あれば非常にいいのですけれども、難しい課題と思っています。私の口から言えるのはそのくらいです。

○宮沢則之委員長 ありがとうございます。

ほかに何か質問ございますか。

吉田委員

○吉田一志委員 筑波駅長、大変にありがとうございました。先ほどさまざまなインフォメーションセンターとかで情報発信機能のお話がございまして、また、非常にすばらしいと思ったのが、これから地域との連携を深めていくというお話がありました。実は私、岩槻区ですけれども、岩槻は東武線の駅になりますけれども、同じさいたま市の中で、先ほど大宮近辺のいろいろな資源のお話がございましたが、岩槻にも日本一の人形のまちと言われる雛人形であったり、また、埼玉県に3つしかなかった城の一つ、岩槻城があった城下町という部分で、非常に歴史的また文化

的な資源がたくさんございます。

そういう意味で、今後、いわゆる東日本の玄関口の大宮に来られた方がもう一歩足を伸ばして、同じさいたまの岩槻等にも足を運んでいただけるように、大宮駅の持つ情報発信の機能をぜひ活用させていただけるとうれしいと思ったのですが、要望になってしまうかもしれないのですが、所感をお聞かせいただければと思います。

○筑波伸夫大宮駅長 先ほど言いましたけれども、大宮駅というのは、一つの見方でいえば大宮区にある駅ですが、さいたま市の駅という意味では、やはりさいたま市の各区というのは大事だと思います。今ちょうど130周年のイベントで東武アーバンライン、130周年はJ R大宮駅のイベントであるけれども、鉄道で大宮駅まで運んでいただいているのだから東武鉄道とも一緒になってやろうという意味で東武鉄道とも今回の130周年は一緒にやる。当然ニューシャトルとも一緒にやる。さらには国際興業バス、東武バス、西武バスとも駅のイベントではあるけれども、駅まで運んでいるのは交通手段としては公共交通ですから、大宮駅のイベントというのを通じてみんなで一緒にやろうではないかということで、今回、交通事業者ともいろいろ協力をいただくことで動いています。そういう意味で、やはりたくさんの方に大宮駅におりていただくということは、大宮駅周辺だけの魅力では足りない。岩槻に歴史があるのは私もわかっていますし、東武鉄道という鉄道でお運びできるわけですから、そういう部分では東武鉄道ともいろいろと連携してやっていけばいいと思います。そして盆栽美術館とかいろいろな部分で歩いていくという方もいれば、東武鉄道の列車で行くお客様もいらっしゃいますし、そういう意味では東武鉄道の沿線の方々ともおもしろい内容があれば、そこはいろいろと協働してやれることがあると思います。

今、東武鉄道等も言っているのですけれども、大宮で降りてもらうためにはというのは、大宮から行くとスカイツリーにも東武鉄道を通って行けるのです。であれば大宮で降ろすという一つの手段とすれば、スカイツリーももしかすると大宮でおいて食事して、乗っていったらどうですか。帰りは大宮にまた来て、降りて、散策していただいたらいかがですかという意味では、やはり東武鉄道の沿線の魅力というものもいろいろな意味で平日よりは週末のイベントみたいなものがあれば、いろいろコラボレーションしてイベントをやるということも可能ではないかと思っています。そこはさいたま市経済局になると思いますけれども、そういうところと連携してやるとこともいいのではないかと思います。

ちなみに、私の大宮駅には貴賓室というのがあります。貴賓室に岩槻の人形をきちんと飾ってありますので、岩槻の宣伝はきちんとさせていただいております

○宮沢則之委員長 ありがとうございます。

ほかにどなたかございますか。

細沼委員

○細沼武彦委員 大変いろいろありがとうございます。今いろいろお話を聞いている中で、安全性の問題についてもいろいろとお話いただいたと思うのですけれども、高齢者社会がこれから進んでいく中で、ホームの安全性、連絡というか、そういうことを考えますと、やはり駅の場所の近くへ行くと、場所によってはかなり列車とホームとの間を遮断するような仕掛けがあるのですけれども、その辺のこれからの考え方という所見があったら。

○筑波伸夫大宮駅長 これも会社の施策ですけれども、安全計画2018というのをつくっています。それはホームページに入っておりますので、見ていただくとわかりますが、今、山手線にホーム

ドアを入れております。いずれ山手線が充実してくると、次にお客様が多いのは京浜東北線です。そういう形になれば、ぜひ私も大宮駅にホームドアをいれていく、そういう話はしています。ただ、今だんだん安価にはなっているのですけれども、ホームドアというのは相当お金がかかりますから、そのときにはやはり地元の方々の協力も得ながら入れていくという考えになっておりますので、そこはいろいろな部分でさいたま市、また、そういうところとの話でホームドアというのは進んでいくのではないかと。決して遠い話ではないと思います。

○宮沢則之委員長 ほかに。

渋谷委員

○渋谷佳孝委員 筑波駅長、どうもありがとうございました。駅長とはいろいろな会で御一緒させていただいてありがとうございます。

先ほどの御説明の中で、大宮駅は8位ということで、49万人の実地の乗降客数だと。もう一つ興味がある数字で、40万人は乗り換える方ということでありました。この40万人の方々に大宮駅の外に出ていただくことがまちづくりの課題というふうに思っております。駅長はいろいろと考えていただいているということで、すごく参考になりました。そのような中で、やはり降りていただくにはまちの魅力を高める必要があるということで、駅前の市民、住民、そして特に商店街の方々です。また自治会の方々との連携、これが大切になってくると思います。連携してまちの魅力を高めていくということが大切だと思えます。その点に関してどうお考えなのか。また、取り組んでいることがあれば教えていただきたいのと、あと先ほど氷川神社、これがすばらしい資源であるというふうにお話いただきました。私もそう思っております。氷川参道も都市型で日本一長い参道で、とても魅力あるものだと思います。今、東口で区役所の建て替えが決まり、また、再開発がもう一步のところまでスタートしようというところでございます。駅長が考える氷川神社までの東口のまちづくり構想、何かございましたら参考までにお伺いできればと思っております。

もう1点よろしいでしょうか。一市民としてさいたま市全般の都市交通のあり方について、ぜひ御意見がありましたらお聞かせいただきたいと思っております。JR以外にバスであったり自転車であったり、またLR Tなどというのもございます。さいたま市は東西交通が少ないので、東西交通ルートのご構想もございます。そういった観点から何か御意見あったらお聞かせいただければと思います。

以上、3点よろしく願いいたします。

○宮沢則之委員長 駅長から市への要望という点でも結構ですので、可能な範囲でお願いします。

○筑波伸夫大宮駅長 まず、地元との連携というのはやはり個人的に思うのは、先ほど言いましたけれども、降りていただくということをお客さんの立場になって考えるときに、率直な感想ですけれども、東だ、西だと言っていることについては、私ども全国あちこちの主要都市でいろいろ見えていますけれども、そろそろ東も西もないのではないかと。お客様というのは東口に行ければ西口にも行けるのです。やはりそういうことを考えながら大宮という駅周辺の価値を上げるためにどうするか。そういう大道的な考え方を持っていけないと、東口だけでいいのだ、西口だけでいいのだということになると、それはやはりもったいないのではないかと。思います。

それで一つの部分ですが、平日というのは通勤のお客様が基本ですから、週末というのは魅力があれば、さて今日はどこへ出かけようか、車で行かれる方もいらっしゃるでしょう、鉄道で動く方もいらっしゃるでしょう。であれば、やはり土曜休日にみんなでほかに行かないで、大宮に

来ていただくために何かやろうではないかと。それは月一回でもいいです。第1週目の土日でやるとか、市でもいいと思うのですけれども、何かそういうような、みんなで何か一つになってやるということ、それを今、大宮RENKETSU祭とか何かでやろうという仕組みを教えているのですけれども、そういう部分でもっと一緒になって、西口へ来たら東口もいいものがあるよ。東口に来たら西口もいいものがあるよ。そういうような相互に情報がお互いに出せるような、そういうことも必要ではないかと思えます。

そういう意味では、もっとお客様の立場になって考えるということ意識する必要があるのではないか。そこが少し「おもてなし」というのは今、オリンピック誘致でいろいろ言っていますけれども、大宮駅というか、大宮駅周辺の本当に来てもらうという気持ちでの「おもてなし」という言葉がここにはあるかというのが、私の気持ち的にあります。そこがいいチャンスではないのか。

それから、あとは氷川神社というのは、私は歩いていますから、さいたま新都心の一の鳥居から、本殿までちょうど2キロメートルです。大宮公園まで2,114メートルありますけれども、やはり非常にすばらしいです。

でも、時間がある方は参道をずっと歩いていただければいいのですけれども、大宮駅から行くというときの、どこを歩いていくのかというのは、やはり地元の商店街の方々は多分商店街のところへ入ってきてくれと言うのでしょけれども、でも消費者の立場になると、氷川神社にお参りに行くというときに、復路の場面でお金を使うと思うのです。本来で言うと氷川神社まで歩いて、参道まで大宮の駅前ルートを、参道ルートとかの名前をつけてもいいと思うのですけれども、ショートコースで大宮から行けます。でも、そのときは多分お金は使わないと思うのです。消費者の立場で言うと、氷川神社に行って、ああすごいな、大宮変わったな、さて大宮とはどういうところなのだろう、となると多分氷川神社に行ってからです。そうであれば、やはり周遊ルートになると思うのです。行きの場面で立派な大宮の駅の正面通りを行くと、今度、参道が見える。あの参道から見た景色は最高です。だから、そういうところでは、私が考えるお客様の立場だと、やはりそちらを意識する。すごいな、氷川神社と。あの参道をずっと歩いて本殿、そこからはいろいろな回り方があると思うのです。そういう帰りで商売をするという発想が多分大事ではないか。そこを往路も復路もとなると、多分商店街の方々は何でそのような大きい通りでと言う方もいらっしやると思うのですけれども、遠くから足を運んでいただいている方にとっては、それが一番感動を与えるのではないかと。この参道をすぐ見せる、あとは散策してもらう方法をどうやるかと考えていくと、いろいろな部分で使い方だってあるのではないかと思うのです。ですから、私は地元の方々がどんどんそういう意味で氷川神社というものを大事にするのであれば、今大宮駅は東口、西口と言っています。でも、改札口の名前は愛称名というのがあるのです。東口けれども、氷川口と言おうと思えば、それはできないことではないと思います。それは地元の方々がそういうふうには氷川神社というものに光を当てて、まちを元気にしていこうではないか。そうであれば、氷川口という愛称名として入れることでも可能ではないのか。ただ、そのためには今のままでいいのかというのはあるので、まだ今のままで時期尚早ではないか。もっとまちづくりを含めて考えていかないと。もちろん雰囲気もあります。東口のほうが夜、駅長室で外を見るとみすばらしいので、少しきれいにしろと今、言っているのです。もう少し我慢してください。東口をもう少し耐震で今、壁をきれいにしていますので、駅名の看板が低いではないかと。遠く

から見ると見えないのです。もっと上に看板をつけられない。それは少し時間がかかるのですけれども、やはり大事な東口。そういう意味では駅もできるところから変えていこうということで、今、大宮支社に言っていますけれども、やれることは少しずつやります。でも、東口では氷川神社というのはやはり大事になってくるのではないかと。あそこを何とかやればすごいのではないのでしょうか。

それとあと、さいたま市全体の都市交通というのは、先ほども言いましたけれども、埼玉県のさいたま市の人口というのは、やはりこれだけ交通が便利になると、多分北陸から大学生とか東京の大学に今度たくさん来ます。そういう意味では私みたいに地方に仕事のない人たちは多分ふるさとが一番近い、埼玉県、特にさいたま市というのが一番いいところになる。だから、東京まで近いですという情報を発信することで、ここから通勤できるわけです。安全です。そういうところでは都市交通のあり方というのは、大宮の例で言うと、駅をどうしていくか、やはりほかの大きい駅、政令都市の駅に比べたら、まだまだ十分ではないのではないかと。ただ、駅として何ができるかとあるのですけれども、ただ、もっとここはやはり大宮区は物すごく便利だと思って、土地の額も上がると思います。上がっていますけれども、そういう意味では期待されているところですから、そういう意味で言えばもう少し、大宮だけではないのですけれども、交通、バスも含めていろいろと考えていかなければいけないのではないかと。そういうところでは先ほど言いましたように、バス事業者と今いろいろな情報交換を始めていますので、やはり東京駅で乗っているお客様ではないので、いろいろな交通手段を使って大宮駅に来ていただいて、大宮駅の改札を通る。であれば、そういういろいろな交通事業者との連携というものもあると思いますので、特に大宮に関して言うと、東口をどうするのかというところは大事なテーマになってくると思いますし、そこはいろいろな部分で試算とかいろいろやっているとありますが、そこはやっただけの投資というのは十分生み出せる需要というのは当然あると思います。そういう意味ではやはり駅周辺の機能というものがもう少し便利になるといいのではないかと思います。

○宮沢則之委員長 ありがとうございます。

時間の関係もありますので、最後にもう1人とさせていただきたいと思います。

村松委員

○村松順子委員 きょういろいろとたくさん聞かせていただきまして、いわゆる民間の方の視点というのが、私にとってとても楽しいです。そして駅長の思いがたくさん伝わってきまして、本当にありがとうございます。今日も駅長のお話の中で、少子化だけでも、女性の就労をふやすことによって、実は今を乗り切れるのではないかといたお話を伺わせていただきました。就労人口がまだ少ない、特に埼玉県は家庭に入ってしまった方がその後、就労に出ないという、M字カーブというのがあるのですが、非常に埼玉県はM字カーブが深く、一旦家庭に入った方が勤めに出る方が少ないということですが、今度保育園もつくっていただくということなので、女性に優しい大宮駅になるのではないかと考えていますけれども、ただ、女性にとっては通勤時間が長かったり、あるいは電車の中は混んでいますので、痴漢対策であったり、そういった面で、女性に優しい大宮駅を駅長はどのようにこれから構築されていく予定があるのでしょうか。ぜひお願いいたします。

○筑波伸夫大宮駅長 まず、駅の中で一番大事なことは安全でなければいけないということだと思います。お客様の命を預かるし、やはり安心よりも安全だと思います。そういう形の中で大宮駅

でも痴漢犯罪が多いです。私の社員も痴漢に遭いました。そういう意味で、今、警察の方々と痴漢撲滅の関係、痴漢犯罪防止連絡協議会の会長が私ですので、やはりそういう意味では女子高校生とかに対する痴漢を絶対に許さない。ちょうど大宮駅には鉄道警察隊という鉄道利用者をそういう犯罪から守る組織があります。その署長が今回、澤登さんという女性の署長になりましたので、そういう意味では大宮駅の中を女性の方にも快適に御利用していただき、警察の助けも借りながら、いろいろな部分で犯罪は許さない、もう痴漢は犯罪だと。今、ポスターも民鉄と一緒にあって大きいポスターを駅に張っています。ただ14枚しか張っていないので、もっと張れと。やはり情報を出すことで牽制があったり、女性だけではないですが大宮駅というのがやはり地方から出やすい駅になっていますので振り込め詐欺も、そこでお金のやりとりがなくても、そこで何かいろいろなことをやるケースもあるとか、やはり埼玉県内で一番大きい駅ですから。警察の署長たちとすると、一番犯罪の可能性があるのは大宮駅だそうです。だから、私は駅長として大宮駅を安全に安心して御利用していただくために、どんどん警察がやりたいことであれば、駅を使ってやって結構ですということを言っていますので、そういう意味ではやはり警察の力を借りながらやっていきたいと思うし、女性という意味であれば、女性が働くための環境、いわゆる子どもを預かる場所とか、やはりもっとそういう施設、子育てもそうですけれども、そういう部分を強化するのも必要かと。

結構大宮は女性のまちです。東口に、気がつくとも西口にも多いのですけれども、美容室の数というのは全国でたしか一番じゃないですか。激戦区です。何でこのような有名な美容院があるのか。でも、地元の人にはわかっているのか、わかっているのか知りませんが、これだけ美容室が多いということは、女性の方々が来ているのです。そういう意味ではもっとそういう女性に優しい、女性に活用されているとか、そういう女性が集まるようなこともやはり力を入れていく必要があるのではないかと。多分働くとするれば、子育てのときの施設をきちんとつくればお子様を預けて、帰りに引き取って帰る。そういう意味では雇用の場というのは絶対ふえていくと思います。そういうところで一つの、大宮として変わるのであれば、そういうことも大事なことになるのではないかと思います。

○宮沢則之委員長 ありがとうございます。

時間がまいりましたので、以上をもちまして質疑応答を終了させていただきます。

本日、筑波駅長、また委員の皆様からいただいた貴重な御意見をしっかりと委員会としても役立てていきたいと思っております。また、今後委員会での調査研究の報告書の中にも形として反映をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いを申し上げます。

本日は活発な御意見、御提案ありがとうございました。いま一度筑波様に温かい拍手をお願いしたいと思います。どうも本日はありがとうございました。（拍手）

○筑波伸夫大宮駅長 130周年ぜひ期待してください。大宮駅周辺がどれだけ元気になっているかというのを、ぜひ御確認してください。頑張ります。

○小柳嘉文副委員長 どうもありがとうございました。

予定よりも大分オーバーをいたしました。大変熱のこもった委員会だったかなと思っておりますが、本日予定しておりましたプログラムはおかげさまで全て終了させていただきました。

それでは、最後に、宮沢委員長より閉会の御挨拶を申し上げます。

○宮沢則之委員長 本日はどうもありがとうございました。さいたま市議会として、またまちづく

り委員会といたしましても、今回のような調査研究を委員会でしっかりやっていくと同時に、現在12月の定例会議をやっておりまして、議案審議もさせていただいております。

18日、19日はまた本会議ということでございますので、この機会を受けて、ぜひともまた議場に足をお運びいただいて、こういった議論をしているのだということに理解を示していただければありがたいと思っております。

本日は夜分にもかかわらずたくさんの方々にお集まりいただきまして、本当にありがとうございました。また、今後もしっかりと市民の皆様方の御意見、これだけの委員がいますので、率直な御意見をお聞かせいただいて、しっかりとまちづくりに貢献していきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。

○小柳嘉文副委員長 ありがとうございました。

これをもちまして、さいたま市議会まちづくり委員会オープン委員会を閉じます。

散 会（午後8時20分）